

報告題目： 為替リスク管理から考えるアジアのインフラファイナンス

赤羽 裕（亜細亜大学）

本報告は、産学官での議論が増加しているアジアにおける「インフラファイナンス」に関して、為替リスク管理の視点から、検討をおこなうものである。

インフラファイナンスは、アジア域内でも 2010 年～2020 年で 8 兆ドル超のニーズがあると言われており、産学官それぞれの立場で今後もさまざまな観点での研究や検討がなされると考えられる。本報告では、そうした中で、各国のインフラ整備資金として長期資金が必要となるインフラファイナンスに関して、為替リスク管理の観点から考えてみる。インフラファイナンスは、基本的には各国内の社会資本整備のための資金であり、ニーズとしては、自国通貨建て、かつ長期資金である。この「自国通貨建て・長期」というキーワードは、アジア通貨危機の原因のひとつと言われる「ダブル・ミスマッチ」を想起させる。そのため、今後のアジア各国のインフラ資金ニーズへのファイナンスにあたっては、為替リスク管理の検討も重要であると考え。検討にあたっては、ファイナンスを受けるアジア諸国側のみが為替リスクを負う形ではなく、今後も長い目で見れば成長の期待できる地域であるアジアへの投資として、投資家側もリスクテイクするスキームも重視した。

まず、アジアにおけるインフラファイナンスの概要の把握と為替リスクヘッジに関わるアジアの留意事項の確認を行ったうえで、その方策の検討に取り組んでみた。短期的には、CGIF のプロジェクトボンドへの保証拡充と当該債券のインフラファンドによる購入、中期的には、東京をはじめとするプロボンド市場でのインフラボンド取扱と、アジア地域通貨でのプロジェクトファイナンス資金供与のための銀行の日本国債の担保としての活用である。また、長期的には ABF2 のインフラボンド版を構想した。合わせて、アジア通貨の為替リスクヘッジに関する規制緩和と域内通貨間の為替相場安定の必要性を想定している。いくつかの方策を検討したものの、まだ、それぞれが構想段階であり、今後、実現可能性などの視点で、検討を重ねていきたい。

なお、本稿の内容・見解は個人的なものであり、本務先、その他いかなる組織とも無関係である。